

令和8年第2回定例会（6月） 一般質問
令和8年6月18日

○議長（沓掛義範） 5番、佐藤昭生議員。

1、高齢者の独居世帯への対応についての質問を許します。

佐藤昭生議員。

〔5番 佐藤昭生質問者席登壇〕

◆5番（佐藤昭生） 通告に従いまして2項目について順次質問をいたします。

それでは、1項目めとして、高齢者の独居世帯への対応について伺います。

現在、本市においても高齢化が進み、独居高齢者は増加していると認識しております。独居高齢者は、日常生活の不安に加え、孤立や孤独死、緊急時対応の遅れといった深刻な課題を抱えております。特に近年は、地域のつながりの希薄化等により、異変の発見が遅れるケースも懸念されております。

そこで、本市における独居高齢者の実態と対応について、お伺いします。

（1）人数の推移、把握方法、名簿の整備状況、更新頻度について。

（2）見守り体制について。

（3）異変があった場合の対応について。

（4）消防との連携について。

（5）ICTを活用した見守りについて。

○議長（沓掛義範） 1、高齢者の独居世帯への対応については、高齢者福祉課長より答弁があります。

曲高齢者福祉課長。

〔高齢者福祉課長 登壇〕

◎高齢者福祉課長（曲賢治） 高齢者の独居世帯への対応についてのご質問にお答えいたします。

本市における独り暮らしの高齢者数は、毎年更新している避難行動要支援者名簿によると、令和8年3月末での75歳以上の独居高齢者は546人ですが、この数値は情報提供への同意を得ている人のみを対象としているため、正確な人数や推移については実態を把握できていない状況にあります。

この情報は、民生委員や自治会などと共有し、平時からの声かけや見守り活動に役立てています。

また、社会福祉協議会に配置している生活支援コーディネーターと連携し、各地域の住民による支え合いや見守り活動の立ち上げを支援しているほか、地域包括支援センター及び各町に設置したランチの職員による訪問などを通じて、支援が必要な高齢者の状況把握と見守りの推進に取り組んでいます。

さらに、食事の確保が困難な高齢者に対しては、配食サービス事業を実施し、食事提供と併せて配達時の見守りを行っています。また、本年3月には、日本郵便株式会社と包括的連携協定を締結し、異変を察知した場合には、消防署や警察署へ通報するなど、不測の事態の未然防止に努めています。

一方で、緊急時の連絡が不安な高齢者に対しましては、緊急通報装置設置事業により機器を貸与しており、利用者が緊急通報ボタンを押した場合には、市が委託するコールセンターへ通報が入り、状況に応じて速やかに119番通報を行うとともに、あらかじめ登録された家族等へ連絡を行います。

あわせて、通報を受けた救急隊員等による適切な処置が可能となるよう、かかりつけ医療機関、持病、緊急連絡先等の救急時に必要な情報を記載した見守りカードを容器に入れて冷蔵庫の中で保管する、あんしん見守りボトル配付事業も実施しています。

I C Tを活用した見守りにつきましては、民間事業者によるサービスの状況を引き続き研究してまいります。

〔高齢者福祉課長 降壇〕

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員、再質問ありますか。
佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 独居高齢者の実態把握について伺います。

独居高齢者への対応を進める上で、まず、対象者の把握が重要であると考えます。

今回の答弁では、実態を把握できていない状況にあるとのことでしたが、市として現在の把握方法で十分であると考えているのでしょうか。また、今後、実態把握の精度向上に向けた取組を検討する考えはないか伺います。

○議長（沓掛義範） 曲高齢者福祉課長。

◎高齢者福祉課長（曲賢治） 現在、市では避難行動要支援者名簿を基に、特に支援を必要とする独居高齢者の把握を行っております。しかし、名簿は本人の同意を得た方のみを対象としているため、正確な人数や実態の把握には苦慮しているところであります。

今後は、関係機関との連携を強化するとともに、さらに多くの方から名簿への登録同意が得られるよう周知啓発などを行い、実態把握に努めてまいります。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） よろしくお願ひします。

次に、見守りの担い手不足について。

民生委員や自治会など地域の皆様のご尽力によって見守り体制が支えられていることは理解しております。

一方で、高齢化の進行に伴い、見守る側も高齢化している状況があります。現場から担い手不足や負担増加についての声は寄せられているのでしょうか。また、将来的な体制維持についてどのような課題認識を持っているのかお伺ひします。

○議長（沓掛義範） 曲高齢者福祉課長。

◎高齢者福祉課長（曲賢治） 本市では、地域包括支援センター及び各ブランチに、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー等の専門職を配置し、対応に当たっております。地

域での見守り活動を支える人材の確保と負担軽減については、重要な課題であると認識しております。

こうした状況を踏まえ、専門職による支援を必要とするケースに注力できるよう、地域の支え合いや見守り活動の立ち上げ支援を継続するとともに、担い手の育成や活動を支える環境づくりに取り組んでまいります。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 今の答弁にありましたランチとは、具体的にどのような施設、機関を指すのかお伺いします。

○議長（沓掛義範） 曲高齢者福祉課長。

◎高齢者福祉課長（曲賢治） 本市におけるランチとは、市役所の各支所に設置している地域包括支援センターの相談窓口を指します。保健師または社会福祉士を1名、専任の相談員として配置することで、より身近な場所で高齢者等の相談に応じる体制を整えております。

ランチの主な業務内容としましては、総合相談窓口として、介護、健康、福祉、権利擁護など、高齢者に関する幅広い相談に対応することです。また、各町で月に一度、認知症家族会や認知症カフェを開催するとともに、介護申請など各種申請の代行も実施しております。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） よく分かりました。

次に、昨年12月定例会の一般質問で、れいめい会の田嶋栄一議員が提案して実現できた日本郵便との包括的連携協定について、この協定については評価をしております。

協定締結後、実際に異変の通報や相談につながった事例はあるのでしょうか。また、協定が締結だけに終わらず実行性のある取組となるよう、どのような運用を行っているのか伺います。

○議長（沓掛義範） 曲高齢者福祉課長。

◎高齢者福祉課長（曲賢治） 日本郵便株式会社との包括連携協定は、本年3月に締結したところであり、現時点で異変の通報や相談に至った事例はありません。

協定が形式的なものにとどまることがないように、定期的な情報交換の場を設けるなど、関係部署と連絡体制の構築に努めてまいります。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） ぜひ情報交換をよろしくお願いします。

うちの近所であった事例ですけれども、郵便局の方が独り住まいの方の家のポストを見

て、ずっとたまっているもので、確認したら、玄関に倒れていたという事例もありますので、特に進めていただきたいと思います。

次に、ＩＣＴ活用の具体化について伺います。

ＩＣＴを活用した見守りについては、研究するとのことでしたが、既に他の自治体では冷蔵庫の開閉や電力使用量、各種センサーなどを活用した見守りが行われています。導入ありきではありませんが、まずは先進事例の調査や事業所との情報交換、小規模な実証実験などを検討する考えはないのかお伺いします。

○議長（沓掛義範） 曲高齢者福祉課長。

◎高齢者福祉課長（曲賢治） ＩＣＴの活用については、導入を前提とするものではありませんが、効果的かつ費用対効果の高い仕組みを継続的に研究してまいります。

今後も先進事例の調査や民間事業者からの情報収集を行ってまいります。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆５番（佐藤昭生） これは参考資料でありますけれども、ＮＴＴドコモビジネス（旧ＮＴＴコミュニケーションズ）ささえｉコミュニティ、自治体向けに、高齢者見守り、情報配信、地域連携をＩＣＴで支援する仕組み、自治体導入を想定しています。

冷蔵庫開閉、ドア開閉、電力使用、動線センサー等を利用するセンサー型見守りは、既に一般化しており、通信会社やセキュリティー会社が提供しています。非接触センサーや室内行動検知なども実証しており、装着不用、カメラ不用で見守る方向に進んでいます。特に、大都市より過疎、中山間、高齢者地域で導入されているとなっております。

具体例を挙げますと、福島県会津若松市、2017年から前身サービスを導入し、現在は、ささえｉコミュニティベースへ更新しています。中山間地域で高齢者見守りや地域情報発信に活用されております。さらに高齢者見守り実証も継続しております。

北海道神恵内村、人口の少ない自治体ですが、地域デジタル回覧板として導入し、高齢者とのコミュニケーション維持や情報伝達に使われ、端末稼働率90%程度を維持した事例もあります。あと、三つ、四つありますが、参考までに、こういう導入した自治体があるということを申し上げます。

今の参考事例を述べた後ですけれども、ＩＣＴ活用の具体化について、再度、答弁をお願いします。

○議長（沓掛義範） 曲高齢者福祉課長。

◎高齢者福祉課長（曲賢治） 近年は、民間事業者による技術革新が進み、プライバシーに配慮した赤外線等の非接触型センサーによる異変検知や、電気、水道等のインフラデータとの連動による見守りなど、高齢者に操作の負担をかけない緩やかな見守りを可能とする多様な選択肢が登場していることを認識しております。

引き続き、こういった民間業者のサービス等を研究してまいりたいと思います。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆ 5 番（佐藤昭生） 実態把握の課題や担い手不足など、今後さらに高齢化が進む中で、検討すべき課題も見えてきたと感じております。

地域のつながりによる見守りを基本としながら、その取組を補完する手段として I C T の活用も研究していただき、本市に適した持続可能な見守り体制の構築につなげていただくことを期待し、この項の質問を終わります。

○議長（沓掛義範） 次に、2、救急車の適正利用と消防署の体制についての質問を許します。

佐藤昭生議員。

◆ 5 番（佐藤昭生） 救急車の適正利用と消防署の体制についてお伺いします。

近年、全国的に救急出動件数は増加傾向にあり、救急医療体制への負担が課題となっています。本市においても同様の傾向が見られる中、救急車は市民の命を守る極めて重要な社会資源であり、本当に必要な方が迅速に利用できる体制の確保が不可欠であると考えます。

また、救急出動の増加は、現場で対応する消防職員の負担増加や、消防署の体制そのものにも大きな影響を及ぼすものと懸念しております。

そこで、本市の現状と課題、そして今後の取組について、お伺いします。

- （１）本市の救急出動の現状について。
- （２）救急車利用の課題について。
- （３）救急車の適正利用に向けた取組について。
- （４）市民への啓発について。
- （５）消防署の体制について。

○議長（沓掛義範） 2、救急車の適正利用と消防署の体制については、消防長より答弁があります。

宗岡消防長。

〔消防長 登壇〕

◎消防長（宗岡幸二） 救急車の適正利用と消防署の体制についてのご質問にお答えいたします。

現在、救急出動については、全国的に増加傾向にあり、本市においても令和7年の出動件数は2,343件と、前年比108件の増となり、過去10年で最多となっております。内訳は、急病が1,447件、一般負傷359件、交通事故111件、転院搬送376件、その他が50件です。

課題については、市外医療機関への搬送に伴う救急隊の長時間の出動により、一時的に市内での救急車が不足し、他の救急事案への対応に遅れが生じるリスクがあることです。また、軽症者による利用が重症患者への対応を圧迫する可能性も懸念されます。このため、医師会や医療機関と密接に連携し、適正搬送の推進に努めています。

救急車の適正利用については、市のホームページやケーブルテレビ、各種講習会等を活用し、広く周知を図っています。あわせて、判断に迷われる際は、大分県救急安心センター「＃7119」や大分県子ども救急電話相談「＃8000」の利用を推奨し、適切な医療機関

の受診を呼びかけているところです。

現在、市消防本部は1本部1署3分署体制の下、84名の職員と消防車5台、救急車4台、救助工作車1台により運用しています。現状では、救急業務を含む全ての災害活動に支障なく対応できており、災害が重複し当務員のみでの対応が困難な事態においても、非番者招集計画に基づき即座に必要な人員を確保し、万全の出動体制を整えています。

今後も市民の負託に応えられるよう努めてまいります。

〔消防長 降壇〕

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員、再質問ありますか。
佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 救急車が通れない、入れない場所はどうに対応していますか。
また、道幅が狭い、支障木があって赤色灯の部分が当たるといったような場合も含めて、道路管理者との日常的な連携はどのように行われていますか、お伺いします。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 狭隘地により救急車の進入が困難な場所への出動は、軽自動車の緊急車両と救急車を同時に出動させる体制を取っております。この運用により必要な救急対応ができております。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 先ほど保有台数の消防車5台、救急車4台、救助工作車1台のところで、軽自動車が入っていなかったんですけれども、それは。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 各分署に1台ずつ軽自動車の緊急車両を配備しております。また、本署にも軽自動車の緊急車両を1台配備しております。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） すみません、合計何台ですか。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 軽自動車の緊急車両は査察車を含め計5台です。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 分かりました。

では、次に出動件数増加についてお伺いします。

過去の10年間で最多とのことですが、10年前と比較して職員数や救急隊の体制はどの程度増強されているのかお伺いします。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 10年前の職員数は、市役所からの出向職員を含め86名です。

救急体制につきましては、10年前と比較して救急救命士の配置を充実させ、現在は各救急隊に2人の救急救命士が同乗する体制を取っております。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） では、今のところ大丈夫という判断でよろしいんですか、人員的には。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 現状では、先ほど答弁で申しましたとおり、災害に対応できております。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 次に、市外搬送についてお伺いします。

市外搬送によって救急車が不在となる時間は年間どの程度発生しているのかお伺いします。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 令和7年の市外搬送件数は723件で、これは全救急出動件数の約30%を占めています。一日当たりの平均件数は約2件であり、市外搬送1回当たりの平均所要時間は約2時間となっております。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 市外は大分市が多いんでしょうか。確認です。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 議員の言われるように大分市が多いです。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆ 5 番（佐藤昭生） 次に、軽症者利用についてお伺いします。

答弁では、軽症者の利用が重症患者への対応に影響を及ぼす可能性があるとなっていますが、軽症搬送の割合はどの程度ありますか。また、軽症搬送によって、結果的に救急隊が長時間拘束された事例などはあるのでしょうか、お伺いします。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 軽症者の搬送は、全救急搬送人員の約25%を占めております。軽症搬送で救急隊が長時間拘束される事例はほとんどありません。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆ 5 番（佐藤昭生） 答弁では、対応に影響を及ぼす可能性があるということですが、現状ではないという解釈でよろしいですか。

では、次に「#7119」について伺います。

市内の「#7119」の利用件数は把握していますか。また、市として利用促進の効果をどのように評価していますか。高齢者への周知は十分と考えていますか。

以上、お伺いします。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 大分県救急安心センター「#7119」の利用は、運用開始から令和8年3月まで128件の相談があり、そのうち119番通報を勧めたのは43件となっております。それ以外については、救急車の要請に至らなかったと考えており、救急車の適正利用に一定の効果があったものと考えております。

高齢者への周知ですが、高齢者に限定した説明会等は実施していませんが、市報、市のホームページを活用し、市民の皆様に広くお知らせを行っているところです。今後も様々な機会を通じて周知に努めてまいりたいと思います。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆ 5 番（佐藤昭生） 分かりました。

次に、消防署の体制について伺います。

先ほども答弁ありましたように、現在は支障なく対応できているとのことでしたが、職員の時間外勤務や休日出勤の状況はどのようになっていますか、お伺いします。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 令和7年度の災害対応に伴う職員の時間外勤務等の状況ですが、非番日に出勤した職員は124人、週休日に出勤した職員は23人となっております。

内容につきましては、火災、救助、消防力の低下に伴う対応、行方不明者対応となっております。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 同じく体制についてですが、救急出動件数が増加する中でも現場職員の負担は増加していないという認識でよろしいでしょうか。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 救急出動の増加に伴い、現場職員の負担は一定程度あるものと認識しております。しかしながら、現在の体制で救急業務に努めてまいります。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 先ほどの1の質問と少し重なるんですが、今後、高齢化の進展に伴い救急需要が増加した場合、現在の人員体制のままで十分対応できると考えていますか。再度お伺いします。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 現在の業務量等を踏まえ、今後の救急、災害等の状況を見極めて、地域を取り巻く状況の変化も考慮しながら、消防力の維持と確保に努めてまいりたいと思います。

現在是对应できておりますが、増加傾向にあると思われるので、状況を見極めてまいりたいと思っております。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 今後、増やすという気持ちはあるんですね。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 現状、必要な業務、災害対応はできておりますが、人員につきましては、業務量、勤務状況等を総合的に判断する必要があります。一概に申し上げられませんので、引き続き状況を把握しながら対応してまいりたいと思います。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） よく分かりました。

次に、消防体制を維持するためには、職員同士の意思疎通や風通しのよい職場環境も重要であると考えます。

令和7年12月定例会において、職員例会の開催を提案しましたが、その後、どのような検討が行われたのか、お伺いします。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 職員例会は開催をしておりません。

職員例会をしなかった理由といたしましては、消防事務に関する職員の周知や職員の意見や相談を受けつける仕組みが整っているということが挙げられます。

具体的には、消防職員会を毎年1回開催しています。それから、職員が相談できる窓口を総務係長にしています。そして、ハラスメント防止対策委員会を毎年2回開催しています。

最後に、全職員を対象とした職員研修を毎年実施しております。これからも、消防職員会の充実を図りながら、よりよい職場づくりに努めてまいりたいと思っております。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 分かりました。

職員間の意思疎通や職場環境の問題は、単なる内部の問題ではなく、救急消防体制の質、ひいては市民の命に直結する重大な課題であると考えております。過去の経緯を踏まえ、現状をどのように評価し、今後どのように改善していくか、再度、明確な見解を求めます。

○議長（沓掛義範） 宗岡消防長。

◎消防長（宗岡幸二） 先ほど申し上げましたように、消防職員会、これは毎年1回開催しております。それから、ハラスメント防止対策委員会、毎年2回開催をしております。職員全員を対象とした職員研修も行っております。そして、気兼ねなく、いつでも相談できる相談窓口として、総務係長にしております。

これらの実施していることをさらに充実をさせて、今後よりよい職場環境づくりに努めてまいりたいと思っております。

○議長（沓掛義範） 佐藤昭生議員。

◆5番（佐藤昭生） 何度も言いますけれども、市民の命に直結することですので、よろしく願いいたします。

以上で、全ての質問を終わります。